

平成25年度 千葉県スポーツ推進審議会 会議録の概要

開催日 平成25年6月4日(火)
 時間 15時～16時30分
 会場 千葉県庁中庁舎9階 企画管理部会議室
 千葉市中央区市場町1番1号

<出席委員> (敬称略50音順)

荒川 昇 金澤 篤志 高橋 直子 中村 恭子 浪越 一喜
 畑佐耕一郎 花岡 伸和 柳川 尚子 榊原 佑子 御手洗尚樹

<オブザーバー> 萩原 出 齋藤 文秀 (欠席) (欠席)

<出席事務局職員>

千葉県教育委員会	教育 長	瀧本 寛
健康福祉部 健康づくり支援課	主 幹	日暮 幸一
障害福祉課	副 主 査	木川 泰弘
高齢者福祉課	副 主 幹	石井 睦江
	主 事	武内 香澄
商工労働部 観光企画課	観光推進員	櫻井 新也
企画管理部 教育政策課	副 主 幹	杉山 健一
教育振興部 生涯学習課	副 主 幹	金田 幸夫
学校安全保健課	指 導 主 事	石田 英一
指導課	指 導 主 事	飯野 晋二
体育課	課 長	越川 均
	副 課 長	北林 栄峰
ちばアクアラインマラソン準備室	副参事兼室長	櫻井 博幸
同	副 主 幹	黒田 雅巳
学校体育室	主席指導主事兼班長	牧田 正彦
同	主 査	長嶋 展章
体育施設班	班 長	岩沢 謙太
競技力向上班	指導主事兼班長	伊藤 政利
高校総体推進室	主幹兼室長	嶋田 武彦
同	指 導 主 事	大谷 泰彦
社会体育班	指導主事兼班長	黒川 昭宏
同	指 導 主 事	瀧口 正勝
同	指 導 主 事	長岡 知
同	指 導 主 事	岩倉 貞実
同	指 導 主 事	宮内 博史
同	指 導 主 事	磯辺 邦彦

<次 第>

- 1 開会
- 2 オブザーバー紹介
- 3 千葉県教育委員会教育長挨拶
- 4 議事 (議長：荒川会長)

(1) 報告

- ア 平成26年度全国高校総体の開催について
- イ 第68回国民体育大会及び第13回全国障害者スポーツ大会について
- ウ 平成25年度全国高校総体について
- エ 平成25年度全国中学校体育大会について
- オ 平成24年度点検評価報告書について
- カ 平成25年度第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」重点施策推進計画(工程表)について
- キ 平成25年度第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」予算概要について

ク 平成25年度第11次「千葉県体育・スポーツ推進事業」について

(2) 審議

ア 平成25年度「県民の運動・スポーツに関する調査」項目について

5 閉会

○教育長より

皆様、こんにちは。本日は、御多用中のところ、平成25年度の第1回千葉県スポーツ推進審議会を開催したところ、御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、本県の体育・スポーツの振興に御尽力いただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。

まずもって私の方から、先週、本県の県立学校で体育の授業中に発生しました事故について一言触れさせていただきたいと思っております。

本件は、すでに報道されております通り、倒れたサッカーゴールの下敷きになってお子さんが搬送先の病院で2日後にお亡くなりになるという、尊い命が失われるという、あってはならない事故が、体育の授業の中で発生してしまいました。死亡事故原因につきましては、現在警察等で調査中でありましても、少なくともサッカーゴールを固定せずに使用していたことなどが、既に明らかとなっているところであります。誠に申し訳なく、御家族の皆様にも心からお悔やみを申し上げます。今後このような事故のないように全力で再発防止に取り組む必要がありますとともに、これから、この審議会でも今後のスポーツの振興について様々な御意見をいただくわけですが、足元の安全点検の徹底については同時にできるように最大限努めてまいりたいと思っておりますし、各方面にお願いしてまいります。

またもう一点、体罰問題など、不適切な体育・スポーツの指導の在り方について、大きな課題となっております。本県においても、大きな課題となっております。昨年度、県内の公立学校においては77件の体罰の事故が確認をされております。しかもこのうち残念ながら6割近い43件が部活動の指導中に起きたものであります。県教育委員会としましては、関係団体と連携した体罰根絶に向けた指導の徹底を進めるとともに、もう一方ではコーチングによる指導手法など体罰によらない指導技術の研修の充実などを進めてまいりたいと考えています。

委員の皆様におかれましても御理解・御協力のほどお願い申し上げます。

本日は、今年度の第1回、最初の審議会となりますが、運動・スポーツに対する県民アンケートの実施を含めまして委員の皆様からの専門的な視点から、御意見・御指導・御助言をお願いをさせていただきたいと思っております。

結びに、委員の皆様のみならずの御健勝をお祈り申し上げまして、私の最初の挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

(1) 平成26年度全国高校総体の開催について

高校総体は、通称「インターハイ」として親しまれ、高校生にとっては最大のスポーツ競技大会といえます。

千葉県では平成17年度「きらめき総体」で全29競技種目全てを開催しました。

平成22年度、沖縄県で単独開催を最後に、平成23年度からはブロック開催となり、平成23年度は北東北、平成24年度は北信越、平成25年度は北部九州にて開催されまして、

平成26年度は南関東で開催される予定で、これは千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で全30競技種目が行われます。

平成26年度より少林寺拳法が加わり30競技種目となりました。

千葉県では、水泳・バスケットボール・ソフトテニス・バドミントン・柔道・空手道・アーチェリー・少林寺拳法の8競技種目を開催することになっています。

水泳は習志野市、バスケットボールは船橋市で男子、八千代市で女子、ソフトテニスをして白子町、バドミントンを千葉市、柔道・少林寺拳法を成田市、空手道を印西市、アーチェリーを市原市、開催することになっています。なお水泳につきましては会場の関係で、水球のみを東京辰巳国際水泳場で開催ということになっています。

千葉県としましては、平成26年度の7月26日ソフトテニスでスタートし、その後、8月20日の水泳で終了の予定です。

各競技団体の日程については資料を御覧ください。

この大会に向けて、千葉県実行委員会を立ち上げており、5月17日に第2回総会を開催し準備が進んでいるところです。また、会場の各市町も実行委員会を立ち上げ、準備が進んでいるところであり、県の高等学校体育連盟や関係競技団体、高校文化連盟にも協力を得ています。

競技者だけでなく、「支える」という立場から「高校生活動」を推進しております。

生徒実践委員会の第2回を6月5日に開催予定です。県外の選手を歓迎したり、情報を発信したり、支える活動についても会場の市町と連携しながら確認し、検討し、開催に向けて進めていきたいと考えております。

来る大会はスローガンを「君の汗 輝く一滴 勝利の雫」、愛称を「煌めく青春 南関東総体2014」とし、関係する生徒、来県する方々の記憶に残る大会になるよう準備を進めてまいりたいと思います。御理解をよろしくお願いいたします。

(2) 第68回国民体育大会について

第13回全国障害者スポーツ大会について

平成25年度 全国高等学校総合体育大会について

平成25年度 全国中学校体育大会について

第68回国民体育大会及び第13回全国障害者スポーツ大会（スポーツ祭東京2013）について御説明いたします。

本年度は、東京都開催であり、国民体育大会は9月28日より10月8日まで、正式競技37競技、公開競技3競技を行う予定になっております。

「東京に 多摩に 島々に羽ばたけアスリート」のスローガンのもとで行われます。

大会日程と会場一覧については、3ページ～6ページを御覧ください。

本県も天皇杯・皇后杯入賞に向け、競技力向上推進本部と連携しまして、業務を推進していきたいと思っております。

また、全国障害者スポーツ大会は、10月12日～14日の間、正式競技13競技、オープン競技17競技にて3日間で開催です。

大会日程と会場地については、7ページを参照ください。

次に、平成25年度 全国高等学校総合体育大会ですが、大分県・福岡県・佐賀県・長崎県の4県で北部九州総体として開催されます。

詳細については、8・9ページを御覧ください。

また、全国中学校体育大会は、東海地区で開催されます。

愛知県・静岡県・岐阜県・三重県の4県です。詳細は、10・11ページを御覧ください。

オブザーバー：平成26年度の千葉県の会場となっている26総体ですけれども、高校生活動が動き始めております。千葉県の高校生もなかなか捨てたものではないな、という思いがあります。

各学校代表の生徒が、委員となって、参加しており、委員長の選出では積極的に手を挙げ子どもたちがいて、嬉しく思います。

また、北部九州の大会も、視察する予定でございます。

オブザーバー：全国大会ですが、昨年度は関東地区で開催され、本県でも、陸上競技、バドミント

ンが開催されました。皆様方には、大変な協力をいただきありがとうございました。

お陰様で好評で成功裏に終了できましたことを嬉しく思っております。いろいろありがとうございました。

事務局：はじめにお手元の配布しております冊子「平成24年度点検評価報告書」について説明いたします。

昨年度、3月に開催いたしました第2回スポーツ推進審議会において本計画、実行1年目の点検・評価につきまして、各柱の指標及びそこに紐づく施策の達成状況について、御報告させていただきました。

時間の都合上、各柱の事業の成果と課題については御報告できませんでしたので、詳細につきまして報告書にまとめさせていただきました。

各委員の皆様には、事前に資料送付させていただきましたが、本日の審議会においては昨年度の点検・評価の結果を踏まえ、御意見をいただければと思います。

資料3をお開きください。

平成25年度第11次「千葉県体育・スポーツ推進計画」重点施策推進計画（工程表）を御覧ください。

平成25年度の千葉県体育・スポーツ推進計画の関連事業につきまして、本計画に掲げた目標の達成に向けて、計画期間（平成24年度から平成28年度）の5年間に実施する重点的な取組について、主な事業の工程を示し、実効性を高めながら、計画的な事業推進を進めてまいります。

ここで示しました、各事業の進捗状況については、県民への体育・スポーツに関するアンケート調査の結果や、各柱の指標の達成状況を踏まえ、点検評価を行い、毎年度、取組内容等の見直しを行います。

平成25年度当初予算は3月に知事選が実施された関係で、政策的な判断を要する経費等の計上は差し控えた編成となっておりますが、今回の工程表につきましては6月補正予算に盛り込み、作成しております。

次に各柱の施策に紐づく関連事業の概要についてまとめました。

平成25年度千葉県体育・スポーツ推進事業予算概要(案)を御覧ください。

千葉県体育・スポーツ推進事業予算概要については、柱毎の施策に紐づく、それぞれの事業について、平成25年度の当初予算額を示しております。

柱1の「生涯スポーツの推進」に係る予算につきましては3億1千224万9千円となっております。

柱2の「子どもの体力向上と体育の充実」に係る予算につきましては4千531万4千円となっております。

柱3の「競技力の向上」に係る予算につきましては、2億6千840万9千円となっております。

柱4の「スポーツ環境の整備」に係る予算につきましては、1億9千123万7千円となっております。

柱5の「スポーツを活用した地域の活力づくり」に係る予算につきましては、1億2千272万7千円となっております。

計画全体に係る予算の総額は9億3千993万6千円となっており、前年度に比べ3千81万4千円の減額となっております。

次に内訳でございますが、特に予算の増・減額があった事業や予算規模の大きな事業についてのみ、簡潔に概要を説明いたします。

はじめに「ちばアクアラインマラソンの開催」に係る予算でございますが、今年度につきましては、第1回開催の検証結果を踏まえ、第2回開催への準備として4500万円

を計上しております。

次に全国高校総体準備に係る予算につきましては、平成26年度の開催に向けて大幅な増額となっております。

次に競技力向上推進本部事業に係る予算ですが、昨年度と同様に2億円を計上し、千葉国体の成果を一過性に終わらせることなく、5年から10年後を見据えたジュニア強化に加え、当該年の国体選手強化にも重点を置いたものです。

次に「千葉県体育・スポーツ推進事業の取組について」を御覧ください。

本計画は実行2年目として、本計画の新規事業並びに各柱の重点施策事業についてパッケージにまとめ、「千葉県体育・スポーツ推進事業」としまして6月補正予算におきまして計上しております。

今年度、本事業の実効性を高め、横断的な事業推進を図るため、プロジェクト・チームを立ち上げ、現在、事業内容について検討しているところです。

プロジェクト1 スポーツ立県ちば推進月間関連事業では、昨年度より毎年10月をスポーツ立県ちば推進月間として位置づけ、県民より公募いたしました

「スポーツ元気いっぱい明日のちば」のスローガンのもと、ふだん運動に親しむ機会の少ない方々へ「情報・場所・機会」を提供し、運動に親しむきっかけづくりを支援してまいります。全県的な取組となるよう、広報PR活動を展開してまいります。その予算としまして60万8千円を計上しております。

プロジェクト2 本計画にける新規事業としまして「幼児期における体力づくり」では、園長をはじめ、幼稚園教諭など、指導者に対し、幼児期の運動遊びの重要性について理解して頂くため、研修会、講習会を開催いたします。その予算として12万5千円を計上しております。

プロジェクト3 総合型地域スポーツクラブ支援事業につきましては、昨年度より総合型地域スポーツクラブ連絡協議会と連携し、総合型地域スポーツクラブ交流大会（スポネットちば）を開催しております。

この交流大会では全県の総合型地域スポーツクラブが、千葉県総合スポーツセンターを会場に県内全域からスポーツクラブが一同に会し、交流を深める大会でございます。今後も総合型地域スポーツクラブの育成・発展への支援をすすめます。その予算として50万2千円を計上しております。

プロジェクト4 トップアスリートによるスポーツ教室の開催につきまして、柱5「プロスポーツの活用によるスポーツの推進」の新規事業としまして、県内には多くのプロチームをはじめ、トップチーム、トップアスリートがございました。学校や地域スポーツの推進に向け、トップチーム・アスリートをうまくマッチングさせるような「しくみづくり」につきましては現在、情報収集をし、研究、検討しているところでございます。

その先駆けとしまして、トップチーム・アスリートによるスポーツ教室等を開催させていただきながら、「しくみづくり」への課題等、検討してまいります。

その予算として21万5千円を計上しております。

プロジェクト5 千葉県民体育大会におけるサブイベントの開催につきましては、現在、毎年10月に各市町村において、各競技大会が開催されております。しかしながら、全県民を対象とした大会であるものの、大会の認知度、関心度の低さが課題です。

より多くの県民が「する・みる・ささえる」、それぞれのかかわりで、県民体育大会の認知度を高め、各競技種目の競技人口の底上げを図ることを目的に、県民体育大会におけるサブイベントの開催を検討しております。

その予算として120万円を計上しております。

以上5つのプロジェクトにつきまして、総額265万円を6月補正予算に計上しております。

委員：生涯スポーツ推進の各項目（１）（２）（３）の事業について、他の班が挙げているこれらの予算を体育・スポーツ推進計画として一緒に計上する必要はあるのですか。

例えば「特定健診・特定保健指導」などは、厚生労働行政ではよく聞く施策ですが、これにあえて入れるのならば、もう少し事業の中に体育・スポーツと連携して、このようなことをするから、この事業もこの計画の中に入っているのだ、というようにした方が良いと思います。

議長：いかがですか。

事務局：第１１次スポーツ推進計画を作る際にこのような形で、以前はこういった計画は体育課単独で計画を作っていたが、推進という部分では関連してくると思います。

できれば、様々なことについて、情報交換をしながら進めていけたらいいと思います。

また、あまり直接的な考えはないかも知れませんが、これから深まっていく部分ではと、思います。

議長：そのあたりはどうですか。

委員：それぞれが全く別々にするよりは、情報を交換して皆で連携できる資源は一緒に使って、より効果が上がるようにしていくことはいいと思うのですが、これを見る限りでは、体育・スポーツ推進計画の中に入っていることに対して、一般の方からしたら、「どうして」と、違和感があるのではと思います。これらの内容が無くなってしまうと、生涯スポーツの事業予算額が下がってしまって、千葉県は生涯スポーツの推進に力を入れてないのかなど、思われてしまうかも知れませんが、むしろそのような実態をきちっと見せて、だから予算が、もっと必要なんだと訴えていくことも一つの方法ではないかと思います。

議長：この計画を作る段階で「こういう項目がこの計画に入ります」ということで、構成員さんで話し合って作成しました。だから今日の推進会議も各部局からいろんな方に来ていただいてそれぞれ質問があったら、それにお答えいただくということでこの推進会議は進んでいると思うので、現段階でその内容は外れてしまいます。

委員：はい、わかりました。

議長：「第１２次を作る際には、こう変えたらどうだ。」というのではなく、この計画は新規事業としての予算化までできているので、更に変えるというものではないですね。

委員：はい。

議長：他にございますか。

審議事項に移ります。平成２５年度県民の運動・スポーツに関するアンケート調査項目について事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは次に、資料４を御覧ください。

平成２５年度県民の運動・スポーツに関するアンケート調査実施要領（案）について説明します。

お手元の資料につきましては、今年度のアンケート調査実施要領（案）と昨年度、配布しました成人・保護者用、幼稚園保護者用、児童・生徒用の調査用紙でございます。

本調査の実施に当たり概要につきましては、簡単に説明いたします。

本調査の目的は

- （１）第１１次体育・スポーツ推進計画の実現に向け、県民のスポーツニーズに関する内容を継続的にモニタリングすること。
- （２）計画の進捗状況を把握するとともに、今後の体育・スポーツ関連事業推進のため基礎資料の把握に努める。ことを目的に、実施されるものです。

調査期間につきましては、今年度１１月上旬を予定しております。

調査対象者、調査規模につきましては、県民を対象に成人・保護者３８６０名程度、児童・

生徒1280名程度を予定しております。

各調査項目につきましては前年度の審議会におきまして委員の皆様からの御意見を踏まえ、作成いたしました。また、各柱の点検・評価における指標の妥当性についての御審議いただきました。

今年度、調査を実施するに当たり、改めて調査項目について、委員の皆様から、御意見をいただき、反映させていただきたいと考えておりますので御審議をお願いいたします。

議長：只今、事務局の説明にありましたように、平成25年度のアンケート実施要領（案）ということで、このアンケートは2回目でしたよね。

事務局：はい。

議長：昨年度1回実施し、同じ項目で作成しなければいけない、という制約もないのですか。

事務局：同じ項目でなければいけないこともありませんが、同様の比較はできるという利点はあります。

委員：こういった項目を入れたらいいのでは、ということについては、いいわけですね。

事務局：はい。

議長：いかがでしょうか。

委員：調査対象についてはどうなのですか。

議長：追加はありますか。対象に入っていないとか。

委員：小5、中2、高2以外に難しいかなとは思いますが、幼稚園児は1年経過したら全く違いますよね。小学校も6年間ありますし、低学年が入っていないのもどうでしょうか。

議長：幼稚園の保護者、それから小中高校、成人の方々、成人・保護者用というのはどういうことですか。

事務局：小学校などは保護者にも答えて欲しいという狙いがある。

議長：成人・保護者というのは。

事務局：成人・保護者というのは、各家庭にお子さんに2部ずつ持って帰っていただいて、1部ですと概ねお子さんが持って帰るとお母さんが記入するケースが多いため、2部、持ち帰っていただきました。必ずしもお父さんお母さんに限らず、成人であれば良かったので、例えばお婆さんやお爺さん、お兄さんやお姉ちゃんなど20歳以上であればいいということで、保護者と成人の方が混じったものになっていればと思うので、標記に関しては、成人・保護者としています。

議長：ということだそうです。

委員：対象としている生涯大学校の方は、高齢者層として想定されていると思います。

しかし、生涯大学校に参加される方は比較的元気だったり、生活の上で活発な方が多くいらっしゃると思いますが、高齢者全般の意見というより、高齢者の中でも、わりと元気な方であるという前提で見ないと、千葉の高齢者は元気な人ばかりだなあという結果になるんじゃないかなという気がしました。

それから、ちょっとこれは難しいとは思いますが、家族構成や世帯収入を聞くと、より細かな分析ができる、回収率が減ってしまうかも知れません。最近はそのような調査も増えてきているようです。

事務局：家族構成や収入は分析の軸として非常に有効であるかとは考えていますが、小中学校の児童生徒を通じて行う調査ですので、そこまで踏み込むと、回収率も含めて、学校のほうも、それであればと敬遠されてしまう可能性もあるということで、あまり差しさわりのないような所で分析の軸を属性として整備して質問項目に入れさせていただいたという所があります。

男女別、学年別、地域別、その辺の当たりが分析の軸で地域差等出てくるのかな、と考えて仮説を立てた所がございます。

議長：はい。どうですか。他に。

事務局：今回の審議に提案させていただいた理由としまして昨年度、時間が短い中で委員の

皆様方に御審議いただきました。実際に調査した結果、こうした方が良かったなということで事務局側としてある程度の反省、課題を踏まえていたところです。

各分野の専門の方々に、アンケートの項目として取った方が良いのでは、という意見があれば、非常にありがたいというところがございます。

調査の実施を、11月に予定しておりますので、お気付きな点があれば今後、御連絡をいただければ、検討期間に入っておりますので、最終的なものについては、再度委員の方々に送らせていただき、それぞれの立場で是非このようなことを聞いた方がいいとか、この内容の設問を入れた方がということがあれば、入れさせていただきたいと思っております。

我々の中で点検評価の指標として扱っている項目については、なるべく経年でとっていきたいと考えていて、項目についてはあまり動かさないようにと思っております。

聴き方または選択肢によっては、回答に偏ったデータが出てきますので、その辺についてはまた御意見をいただきたいのと、中身として特に児童生徒については、今回のアンケート結果では「体育の授業は好きですか」と聞いております。

このような項目が、妥当性が本当にあるのか、特にこの結果から中2の女子から非常に体育好きが減っているという結果が顕著に表れております。今後の事業推進にとって大きな基礎資料になったと、思っています。

また、総合型地域スポーツクラブの認知度が、我々としては30～40%はあると思っておりましたが、実際には10.2%と、非常に低い数値が出ていること。

我々が思い込んでいた現状と実際に数値として上がってきた結果やギャップ等については、今後、検証していかなければならないと考えています。

今後、プロスポーツの活用等については千葉県として多くの地域や子どもたちに夢や感動を与えられるようにマッチングさせるような仕組みづくりと基礎資料づくりになる項目は一体どんなものがあるんだという御意見がいただけると、非常にありがたいと思っております。

そのような観点で御意見をいただければと思いますので、よろしく申し上げます。

議長：これは5年間の実施ですね。第11次の推進計画が終了するまで。

事務局：はい。そうです。

委員：プロスポーツチームとありますが、具体的なチームは、どのようなプロチームがあるのか結構、数があるのですか。

アンケートに回答するに当たり、「このスポーツ見たことがあるとか、具体的に書いてあれば、千葉にもこんなスポーツがあるから一度観てみたいなと思う方がいると思います。」

プロスポーツが沢山あって、ある程度絞り込んだ種目、野球、サッカー、バスケットボールなど書いてあると分かりやすいと思います。

事務局：御指摘のとおりです。ワーキンググループの中でも、検討しましたが、委員と同様に具体的に書いた方がよいのではという意見もありました。

委員：体育・スポーツ推進審議会ということですが、アンケートを見ると運動スポーツに関する内容になっていますが、最終的な目標としては、県民の健康・体力を上げることだと思うのです。

運動・スポーツに限定しまわっていますが、一番根本的に生活習慣ということをきちんと確認した上で、足りない運動不足を、スポーツで補うかどうかという聞き方があった方がいいのではと思います。

話は別ですけど、最近とても気になっているのが、親が幼児とか連れて、電車の中でも、2～3歳の子どもが、絶対歩ける子が歩かない姿を見ると、大丈夫だろうかこの子達と、気になります。

運動とかではなく、日頃から運動不足、「通勤は車ですか」とか「駅で階段を使いますか、エレベータを使いますか」みたいな、運動は意識改革的なことを含めたアンケートがあった方

が良いのではと思います。御意見させていただきます。

議長：私も関連するかどうかは別として気になっていることがあります。

今、スマホを見ながら歩いている若者、中高生が多すぎると思う。体育の授業に対する関わり方も変わってきているのかを知りたいなと思います。

ベビーカーを押しながら、スマホしているお母さんもいるくらいだから、ひとつの新しい社会現象みたいなものが、これから起きてくるとすれば、見過ごしできない。

社会的な問題としてこのような質問項目も、児童生徒、保護者に聞いたらどうかと思います。

事務局：健康福祉部健康づくり支援課です。生活習慣に関しましては、私どもも、現在検討しているところをございまして、120項目くらいの中で、御指摘のあったことについては、更に検討してまいります。

議長：他に。

委員：子どもはともかく、大人に種目を聞かないのは必要がないからですか。

継続調査であるなら、千葉県の特徴や力を入れていきたい種目の普及状況の推移がみられると思うのですが。

事務局：全国調査をいろいろ見て、千葉県ならではの種目もあるかと思いました。

恐縮ですが、紙面の都合上、全国どこでも大体の方々が散歩、ウォーキングが上位を占めるのと、みなさんが非常に多様な種目をしています。先行調査等でもある程度見通しが立っていましたので種目については触れませんでした。ただ、千葉県ならではのところもあるかも知れませんので、入れられれば入れてみようかなという気持ちは、ワーキングの中でも話題にしています。活動場所については、広場とか散歩道、道路が第1位だそうです。

散歩やウォーキングなど、千葉県では取っていませんけれども、大いに参考になりました。

議長：よろしいですか。他にございませんか。

委員：管理栄養士をさせていただいています。食事に関する質問項目に、「朝ご飯は食べますか」という項目があります。適度な運動と朝からきちんと食事をしていれば、体力がつくであろうと予測ができます。その確認の項目として、“学校を休まない、出席率がよい”ということにも着眼するとよいのではないのでしょうか。最近、学習塾と同様にスポーツに関する習い事が多くなっています。部活や校外のクラブで夜遅くまで練習をし、生活が夜型となり運動が健康増進の為になっているのかなと思われる場合もあるように思います。過度な運動習慣や栄養補給が不十分な場合、心や体力の向上がかえって阻害され、怪我が多かったり、学校を遅刻したり、休みがちになったりの一因になっていることもあるのではないかなと思います。適度な運動と朝食をしっかり食べ体力向上に至っているという総合評価として「学校を休むことが多いか少ないか」等、の聞き方のアンケートを一つ入れると面白いのかなと思います。

議長：いかがですか。

事務局：朝食の欠食率につきましては、食育の推進という箇所の指標にさせていただいています。

他の項目とクロス集計することで、より児童生徒の実態が見えてくるところは非常に参考になりますので、検討させていただければと思います。

委員：生活習慣と運動の関連性は同じ回答者がこうだからこうだと、その関係の中からはしか見えない。また、それぞれ別々に単純に集計してしまうと関連が見えてこないのも、本当は一人の人に対して全部横並びに並べて、運動を日頃やっている人は、生活習慣が良いとか、悪いとかの関係が見えないですね。別々にとってしまうと、本当は一つの表で一人、二人がどう思うか、クロス集計をするときには見えてくるものがあるのではと思います。

議長：先程、事務局の健康福祉部さんは、アンケートは何人ぐらい、いつごろ取るのですか。

事務局：時期とか詳しく言えませんが、今後、詰めていくというところで、現在は、検討中です。

初めて実施するので、タイミングなど、検討していきたいです。

議長：体育課で提案していることとコラボレーションできますか。

できればその方がよいですね。

議長：他に、5年間の経年変化を見るということと、それから本日出た、新しい中身について新たに付け加えることができるのか、その辺は事務局の方で十分検討していただければと思うのですけれども。

他に、無いようでしたら第2回目の体育・スポーツに関するアンケート調査。その中身、内容については今、他の課との連携等もありますが、その内容、進捗状況、点検・評価の結果について、事務局にお任せして次回の審議会に提案をしていただくということによろしいでしょうか。

事務局：はい。

議長：それでは、そのようにさせていただきます。事務局よろしく申し上げます。

他に事務局から何かございますか。

事務局：ありません。

議長：それでは以上で。

委員：すみません。予算について質問します。5つの柱がありますが、「子どもの体力向上と体育の充実」が一桁違いませんか。ここだけ、子どもの教育がとても大事なのに一番予算がついてないのは、何故だか教えていただければと思います。

事務局：学校体育の部では、予算がたくさんいただければ本当にありがたいですが、総額の中で学校体育の予算はこのくらいで維持していくのがやっとです。

事務局：体力向上というのはアイデアを出す。少ない予算で大きな成果をあげていくこと。

予算が少ないから難しくなってしまうが、体力向上プランに遊友ランキングや授業マイスター制度など様々なことを実施しているが、すべてが低予算でできることばかりです。

委員：マイスターの先生と知り合いの先生がおっしゃるには、あちらこちらで依頼され、地方でも言われ、地方でも全部持ち出しだそうです。それは実費くらいは出すべきだろうと思います。

でも、長い目で見たときに子どもの教育、子どもが歩いてないのが、とても気になっていて絶対この後、10年後20年後、ボロボロになると思っているのもっと、幼児や子どものために力を入れないと、将来スポーツ選手を育成するのはもちろん、元になっている子どもに対してどうしてもっと努力をしないのかなって、余程気になっているのです。

ここから少し発想を変えていただいた方がいいのではないのでしょうか。

他に、予算が無いのですか。

事務局：学校の先生方の協力を得るなかで、ゼロ予算でやっていることもあります。

言われたように交通費など様々な面で、学校の先生方に、学校教育、それこそ学校長の教育方針の中で体力づくりに人件費とか、そのようなところについて、私たちが行って、いかにフォローするという段階で、予算が付けばこちらの集計関係とか広報活動にしても努力していかないといけないということです。私たちも日頃の体力づくりに関しては、さまざまな努力をしているところです。施策を見ていただければ。

委員：分かります。

議長：ありがたいお言葉、よろしいですか。

委員：少しずつ、見直していただきたいなど、思います。

議長：他に、この際ですから。

委員：幼児版家庭教育リーフレットについて、どちらからいただけるのでしょうか。もうできあがっているのですか。まだですか。

事務局：もうできあがっています。「あ、い、う、え、お」という頭の文字を使いまして、その中に1項目、幼児についての指針とございますか、こんな感じで実施してください。と盛り込んだリーフレットを生涯学習課で作成しまして、関係団体の方には配布してあります。

今年度うまく活用して保護者等に啓発していく計画です。

委員：いただけるのですか。

事務局：すぐ確認します。

議長：他に。

委員：幼稚園を取り上げていただき、ありがたいのですが、世間は、「保育所、保育所」と言っていて、結局、預ければいいような感覚です。年々体力の低下もあると思います。

私は家庭教育を大切にしたいです。家庭でも、学習や健康についても話し合いを持つとか家庭教育を大事にしたい。

家庭においても、体力を付けなければという発想を持っていただきたい。

最近では、グローバルという言葉をよく聞きますが、小さいうちから外国語を覚えるだけではなくて、体力を付けることも必要と考えます。

「千葉県のプロスポーツ知っていますか」というアンケートの設問がありましたが、知ってる人はかなり知っています。千葉にロッテがあるのは皆さん知っているので、どのくらい知っていますかとか、そんなアンケートの項目もあっていいのかなと思います。

議長：他に、新規事業で265万円という予算がつきます。ぜひとも、事務局には御努力いただきたい。

それでは、これで審議を終了します。以上で議長の任を解かせていただきます。